

水稻の生育情報

生育を見て中干しを開始しましょう

概況（6月8日 水稻定点ほ場調査結果から）

6月上旬の平均気温は、平年より高く、日照時間も長くなりました（図1）。

水稻の生育は、前回の調査（5月29日）ではやや遅めに推移していました。今回の調査でも、平年と比べて草丈はやや低く、茎数もやや少なく推移しており、初期生育が遅れた影響を受けていると考えられます（表1）。しかし、全調査ほ場にて、中干可能な茎数を確保できています。

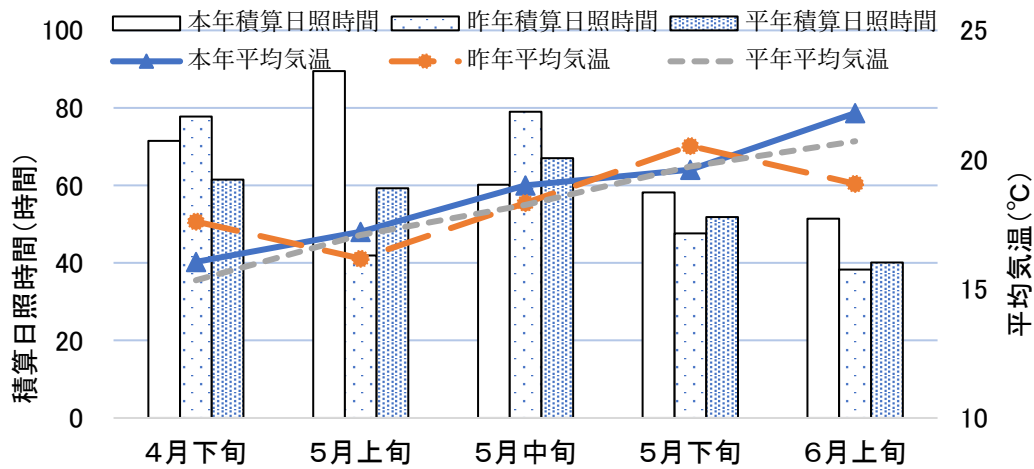


図1 4月下旬から6月上旬の旬別平均気温と日照時間(古河アメダス)

(注) 平年値は1991~2020年の平均値

表1 定点ほ場の生育調査結果(令和5年6月8日現在)

品種	調査地点	田植日	植付本数 本/株	栽植密度 株/m ²	草丈 cm	茎数		葉色 葉色板
						本/株	本/m ²	
コシヒカリ	坂東市	4/29	4.6	15.2	42.6 (46.4)	27	408 (499)	4.6 (4.5)
	境町	4/25	4.8	15.2	41.3 (44.2)	23	348 (457)	4.6 (4.6)
	五霞町	5/5	4.7	15.9	38.9 (38.1)	30	483 (366)	4.5 (4.7)
古河市	5/14	4.4	4.4	17.5	36.8 (38.9)	22	381 (389)	4.5 (4.6)

※()内は過去5年間の平均値。

今後の栽培管理

茎数を確保したほ場（茎数 330~350 本/m²以上）では、すぐに中干しを行きましょう。

近年、コシヒカリにおいて、乳白米の発生による品質低下が問題となっています。農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市）の調査では、籾数増加に伴い乳白米の発生率が上昇することが分かっています

（図2）。中干しにより過剰な分けつを抑えることで、総籾数の増加を抑え、乳白米の発生率を減少させる効果が期待できます。

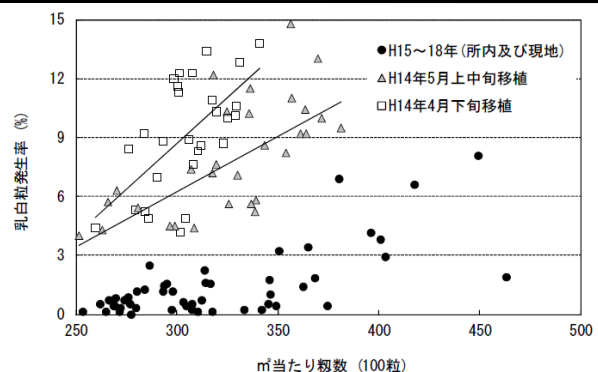


図2 コシヒカリでの乳白米発生率と m² 当たりの籾数の関係

(水田利用研究室調査、龍ヶ崎市)